

## 雪下にんじん出番 品質良く期待

[小千谷人参生産組合]



▲「雪下にんじん」を収穫する生産者

3月28日(土)、JA越後おぢやの生産部会「小千谷人参生産組合」は、JA小千谷野菜集出荷場に「雪下にんじん」の出荷を始めました。

組合では、雪を生かし、秋に収穫したニンジンをいったん、雪の中に貯蔵してから出荷する「雪中にんじん」と、秋に収穫せずに雪の中で越冬させ、雪解けの進む3月下旬から4月下旬に出荷する「雪下にんじん」の生産に取り組んでいます。

組合の佐藤善一組合長は

「ニンジンは、小千谷の雪を生かせる作物の一つだ。雪の持つ力が甘味を最大限に引き出してくれる」と話し、昨年同様に「大きさ、収量ともに高質に仕上がっている」と笑顔を見せます。

組合では、生産者11人が6・8畝で栽培。そのうち「雪下にんじん」には、5人が95%で生産します。日量約200kgを出荷し、総量は20トンを見込んでいます。出荷は5月上旬まで続きます。

## カリフラワー 4万8000kg出荷を

[北部出荷組合]



▲総会で決意を述べる新規加入者

4月1日(水)、JA越後おぢや管内のカリフラワー農家らでつくる北部出荷組合は、総合営農経済センターで総会を開きました。

生産者やJA関係者ら32人が出席し、平成26年度事業報告と27年度事業計画などを承認しました。

26年度の出荷実績は4万6779kg(1kg6#)で、27年度は4万8000kgを

目指します。

同組合の和田浩之組合長は「昨年は、目標の4万6000kgを上回る出荷を達成できた。今年は作付面積を増やし、これまで以上の出荷量を目指したい」と意欲を示しました。

総会では、新規加入者3人を紹介し、新しい仲間を期待を寄せました。

加入した米山恵三さんは「組合の名に恥じない高品質なカリフラワーを生産していきたい」と決意を表明しました。

組合では、生産者39人が14畝で栽培。「雪まつり」「N A-12」など5品種を市内各地で生産し、京浜市場を中心に出荷していきます。

## 育苗センター作業最盛期



▲出芽苗が並び育苗ハウス

両新田のJA育苗センターでは、4月12日(日)より播種を開始し、15日(水)から出芽苗を育苗ハウス内に並べはじめました。今年も雪の影響が懸念されましたが、出芽苗のハウスへの移動は予定通りに行われ、26棟のハウスに出芽苗が並びました。



▲ハウスの使用に合わせて除雪を行うJA職員

出芽苗の各育苗組合・農家への出荷は4月15日から始まっており、約74,000箱を予定しています。なお、硬化苗の出荷は次の通りです。こしいびぎ・こがねもちは5月5日より、コシヒカリは5月10日からです。また、4月4日(土)には、育苗ハウスの使用に合わせて除雪を行いました。ハウス周囲の積雪は約1メートル、昨年より多く、営農生産部の協力要請を受け、各部署からJA職員79人が参加。同施設へ除雪の応援に駆け付けました。新入職員も参加し、初めての作業に戸惑いながらも、先輩職員のアドバイスを受け、除雪作業で汗を流しました。

## 稲作部会が総会と「コシ」共進会 塚田さん(南部支店管内)に栄冠

[稲作部会]



▶最優秀賞に笑顔を見せる塚田さん(右)と須田部会長(左)

4月7日(火)、JA越後おちや稲作部会は、グリーンパークで総会と第30回コシヒカリ共進会を開きました。部会員やJA関係者ら33人が出席し、平成27年度活動計画などを承認しました。総会の中で、同部会の須田文夫部会長は「小千谷農業が発展するよう部会を活用し、安心して買ってもらえる米作りに取り組もう」と呼び掛けました。また、JAの谷口熊一組合長は「高品質・良食味米の生産や水田をフル活用した地域農業

振興、越後おちやブランドの確立に協力してほしい」と訴えました。

新年度、同部会では、①県認証特別栽培農産物(5割減栽培)の取り組み②食味・品質向上の検討③新規農薬・肥料の試験と検討を実施します。

総会後、「コシヒカリ共進会」を開き、部会員が26年度に生産した「コシヒカリ」の食味値や整粒歩合を調査・点数化し、最優秀賞に南部支店管内の塚田勇造さんを選びました。

最優秀賞以外の受賞者は次の通り。かっこ内は所属支店名

▽優秀賞Ⅱ 池田義宣さん(城川) ▽優良賞Ⅱ 目崎謙一さん(城川) ▽努力賞Ⅱ 細金靖さん(四ツ子)、関清司さん(四ツ子) ▽組合長特別賞「食味部門1位」Ⅱ 城倉栄一さん(南部) ▽同「整粒歩合部門1位」Ⅱ 池田義宣さん(城川)

## ラジオで当JAの農産物CM放送中



▲サンブラザで公開放送

FM新潟で放送されているラジオ番組「おぢやファンファンチャンネル」内で、4月より当JAの農産物のPRを行っています。

同番組は、毎週金曜日の正午から55分間、サンブラザで公開放送しています。

なお、JA取扱いの小千谷産農産物が当たる視聴者プレゼントがあり、5月はコシヒカリ3キロです。

ぜひ、ご視聴ください。

## 指一本で簡単操作 「農業電子図書館」設置

▶電子図書館を使用する利用者



4月10日(金)、当JAは、各営農センター3施設の店頭「農業電子図書館」専用パソコンを設置し、組合員ら多くの皆さんからご利用いただいています。

同パソコンはタッチパネル式で、病害虫・雑草の診断はもちろん、防除資材・農薬等の的確な情報を指一本で調べることが出来ます。

ぜひ、お近くの営農センターまで足を運んでください。

## ボランティア活動積極的に [たんぼぼの会]



▲ボランティア活動への積極的な参加を呼び掛ける杵渕会長

4月8日(水)、JAのしあわせ組織「たんぼぼの会」は、グリーンパークで総会を開きました。

会員やJA関係者ら34人が出席し、平成27年度の活動計画などを承認しました。

同会の杵渕力ズ工会長は「安心して暮らせる社会を目指して、今後もボランティア活動の輪を広げていきたい」とあいさつしました。

## 27年度部長に穂苅さん [JA青年部]



▲あいさつをする新部長の穂苅さん(左)と新役員の皆さん

4月13日(月)、JA青年部は、グリーンパークで通常総会を開きました。

青年部盟友やJA関係者ら43人が出席。新部長に谷内の穂苅清さんを選びました。

新年度は、魚沼米産地として「売れる米づくり」に対応した良品質米生産のPRと、地域と連携した担い手の育成・充実に力を入れていきます。

## 全6支店の職員 歩道のごみ拾い

▶歩道に落ちていたごみを拾い集めるJA職員



4月4日(土)、JAの全6支店は、支店活動の強化の一環として小千谷市内で歩道の空き缶拾いを行いました。この日に掃除した歩道の総延長は72<sup>㎡</sup>ほど。ごみ袋約70袋分になりました。

新入職員で、米穀販売課の藤塚麻緒は「地域の皆さんが気持ちよく暮らせる町が維持できるよう、今後積極的に参加していきたい」と感想を話しました。

## 5人に辞令交付



▲決意を述べる新入職員

4月1日(水)、当JAは、JA本店で新入職員辞令交付式を行いました。

谷口熊一組合長は新入職員5人に一人ずつ辞令を手渡しました。

新入職員を代表して営農経済渉外課配属の瀬沼一輝が「あいさつとコミュニケーションを大切に、信頼される職員を目指して精いっぱい頑張っていきたい」と決意を表明しました。

## 魚沼 病院 より お知らせ



### 訪問看護について

JA新潟厚生連  
訪問看護ステーションうおぬま  
管理者 佐藤 まゆみ

こんにちは、訪問看護ステーションうおぬまです。

私たちの訪問看護ステーションは、看護を必要とされる方々が住み慣れた家でより快適な療養生活を送ることが出来るように、かかりつけの医師の指示を受け連絡をとりながら、ご家族の方と一緒に一人ひとりの状態に合わせた「看護」を提供いたします。

最近は医療が進み、長生きが出来る時代になりましたが、いつまでも長く入院できる状況ではありません。チューブをつけたままの退院だったり、酸素が必要だったり医療処置を継続するケースが多くなってきています。いざ退院が決まり在宅へと療養の場が変わる時に、住み慣れた自宅で生活できる事は嬉しいことですが、介護する立場からすれば多々不安も大きいと思われます。そんな時、訪問看護をご検討ください。

### ご利用いただける方

- ・在宅で療養中の方で、かかりつけの医師から訪問看護サービスが必要と認められた方
- ・介護保険の要支援・要介護の認定を受け、訪問看護サービスが必要と判断された方

### サービス内容

- ① 全身状態の観察(血圧、体温、呼吸、脈拍など)・症状の観察・栄養指導
  - ② 清拭・入浴の清潔の看護
  - ③ 床ずれの処置
  - ④ 医師の指示による医療処置(カテーテル等の管理)
  - ⑤ 福祉サービスに関する相談
  - ⑥ 食事・排泄の看護
  - ⑦ リハビリテーション
  - ⑧ 終末期の看護
- ⑨ 申し込みについて  
介護保険をご利用の方は担当介護支援専門員(ケアマネ)にご相談ください。
- 医療保険ご利用の方は主治医にご相談になるか、直接訪問看護ステーションにお申し込みください。どんな小さな事でもご相談ください。利用者、家族の思いに寄り添う「看護」を提供したいと思えます。